

研究だより

入新井第五小学校
研究推進委員会
R4年10月13日(木)
第6号

5年 学級会「運動会に向けて、絆を深める集会をしよう」について話し合い活動を行いました



9月30日(金)第6回となる校内での研究授業を行いました。2学期に入り、みんなで話し合っ解決したいこと、学校生活をよりよくするために、みんなで取り組みたいことを考えていく中で、「表現運動発表会が近いから、運動会を成功させるために、一緒に頑張る仲間ともしっかり絆を深めたい。」という提案がありました。そこで、学級全体に問いかけたところ、全員が「成功させるためには、心をひとつにすることが必要。」という思いがあることが分かったため、本時の議題を「運動会に向けて、絆を深める集会をしよう」としました。

【事前】学級会当日に向けて、事前に行う計画委員会では、アンケートの中から提案理由にふさわしい意見を考え、「スポーツおにごっこ」「リレー」「ドロケイ」「台風の目」「戦国ドッジボール」の5つの活動に絞りました。また、事前の学級会の「出し合う」では、会全体の工夫として「応援団」「活動中に曲を流す」「おそろいのマスク」「最後にソーラン節をおどる」の4つが決まりました。

【本時】今回の学級会では「①何の活動にするか」「②会全体の工夫」の2点について話し合いをしました。話し合うこと①では、「リレーがいいと思います。チームで協力できるし、見ている人も応援できるから。」「戦国ドッジボールがいいと思います。フリスビーを回してあげると絆が深まると思うから。」など、提案理由を意識した意見がたくさん出ました。また、賛成意見だけでなく心配意見も出ると、それに対する解決策がすぐに出てくるなど、学級全体で考えをまとめていくことができました。

話し合うこと②では、会全体の工夫として4つの中から、どれがより絆を深めることができるのかを話し合いました。「応援団をすると活動に参加できないことが心配です。」「人によっては好きな曲を流すと曲に気を取られて活動に集中できないから心配です。」など、本番を想起しながら意見を述べる姿が多く見られました。また、「曲を流すことに賛成です。その曲について一緒に話すことで絆が深まると思うから。」など、提案理由を常に考えた意見が多く出ました。

今回の学級会で決まったことは、「リレー」と「戦国ドッジボール」の2つの活動を行い、会全体の工夫は「活動中に曲を流す」と「最後にソーラン節をおどる」です。一人一人が自分事として捉え、提案理由を意識しながら本番を想定して意見を述べることができました。また、意見に対して心配な点があるときはすぐに解決策が出てくるなど、自分たちで決めていくことへの強い思いを感じることができました。



これまでの話し合い活動を通して身に付けてきた力が、自信になっている児童が多い5年1組。本時の話し合いの様子を見ても、自分たちで決め、自分たちで実践していくことの喜びや達成感を感じている様子が見られました。児童が自分たちの学級や学校生活をよりよくするために、合意形成したことを協働して取り組むとともに、活動を振り返って次の課題解決につなげることを通して、児童の自治的能力を育てていきたいと思ひます。



☆講話

- 特別活動は非認知の力を育むことからすぐには成果が出ないので、積み重ねが特に大切。5-1にはその積み重ねが見られた。
- 学校行事の前後に機械的に学級活動を行うのではなく、学級活動はあくまでも学級生活の充実のために行う。
- 議題の中に中心となることばや定義付けが必要な場合については、視覚して子どもたちと共通理解しておいた点良かった。学級会中に振り返ったり示したりすることができたら、さらに良かった。
- スポーツ鬼ごっこや戦国ドッジボールなど、一見するとルールが分かりにくい活動について、ルールを聞く子どもがなく、事前に共通理解が図れている様子が見られた。
- 今回は、子どもたちが自身の課題に気付き、そこから発案した議題であったため、よい学級活動となった。
- 「清掃を簡単清掃にすればよいのでは。」という児童の工夫に対する意見に対して、「このクラスだけ早く終わらせてしまうのは良くないよね。」という教師の言葉がけがとてもよかった。学級活動のためだからと言って、掃除を短縮することは望ましいとは言えない。その後の、「15分の中で準備できることを考えよう。」という声かけも、とてもよかった。
- ▲課題をより明確にするのがよい。「まだ心を一つにできていない」ならば、その理由を考えると提案理由がより明確になり、子どもたちがなりたい姿をさらにイメージすることができる。
- ▲「絆が深まるから」や「心が通じ合えるから」など、提案理由をもとにしているのはよいが、なぜそう思うのかについて具体的に話せるとさらに良くなる。
- ▲「票が集まっているから選ぶ」のではなく、「学級全体がよいと思ったもの」を選び取れるように、司会グループの伝え方の指導もする必要がある。
- ・基本的に、話合いのめあては技能面にはしない(学級活動以外でも指導できるため)
話合いのめあては、「本時の議題に関する判断基準に関するめあて」にするのか、「学級会と集会活動全体のめあてにするのか」を学校内で統一する必要がある。

授業者の橋本先生にインタビューしました！

表現運動発表会に向けて、今よりもっと絆を深めたい、心をひとつにしたいという願いから今回の議題に至りました。第9回ということもあり、自分たちだけで話し合う力・決める力は身に付いてきたことを感じました。自分本位の意見ではなく、学級にとって何が一番良いのか、友達の意見をどのように生かしていくのか、を考えながら話し合うことができました。学級活動の時間は、自分のよさや友達のよさに、改めて気付ける時間だと考えています。そのために教師である私自身も、子どもたち一人一人のよさを認め、価値付けることを日々大切にしています。

